

ふるさとわがまちづくり

上高町自治区

◆「上高町」の由来

勘八峡から東へ2キロあまり、自然の環境に恵まれた緑の中に上高自治区があります。

上高町は昭和45年猿投地区で一斉に行われた町名変更の時、上鷹見から改名したものですその昔この町の中央の小高い所にお城があった頃のことです。領主の持ち山で、部落中で最高峰の山頂にひとつがいの鷹が巣をかけました。このことがお殿様のお耳に聞こえ、お殿様は、鷹が安全に巣立つようと保護の堂を作らせました。そして、お殿様自身が再三に渡り山頂に登り、鷹のひな鳥の成長を確かめ、喜びとされたということです。きっと、庶民的な名君だったのでしょう。これ以来、この地を上鷹見と呼ぶようになる、上鷹見は由緒と伝え聞いています。この長い間、親しまれた名称も、時代の流れで、書きやすく、呼びやすい名称にしたらということの上高町になりました。

城跡は町のほぼ中心にあり、今は畑となっていますが、土玉といって鉄砲かなにかに使われたと思われる土製の玉がよく見つかりました。

また、町内にある清通寺は、この地方でも数少ない名刹として知られています。



◆「上高町」の自然

上高町のほとんどを自然林が占め、この山に囲まれて、24戸の家々が点在し、100人弱が生活しています。戸数は、徳川時代の記録に30戸とありますから、その時から6戸減っているわけです。引越していった後の宅地は畑となり、住んでいた人の名を取り、今も〇〇屋敷と呼んでいます。

まちの中央には、最東端の山奥の面積50アールの池に源を発する一の瀬川が山の清水を集めて流れています。この川は、住民の日常生活と生産の源として昔と変わりなくきれいに澄んだ水が流れています。もちろん、無公害のハヨ、フナ、ドジョウなどの魚がおり、晩酌の肴として食膳を賑わしてくれます。この他、自然環境は抜群で、東海自然歩道も通っていますし、鷹見岩という、矢作川まで展望できる大岩もあります。

◆課題

かつては、農繁期には、山で薪作りや炭焼きをして生計を立てていました。しかし、近年、日常生活は大きく変わり、ほとんどの人が外へ出て、収入を得ています。そのため、家に居るのは老人と子どもだけです。市街地から自家用車で15分くらいの距離ですが、車が運転できないと交通の便が悪いところです。しかし、静かで、豊かな自然はやはり破壊したくないと思います。現在あるこの自然をできるだけ守っていきたいと思います。

上高町自治区データ

(H20.4現在)

世帯数：24世帯
：24世帯(昭和52年)
組数：4組
面積：2,509K^m²
自治区たより：「上高だより」年4回
回覧：月2回
防犯灯設置箇所：7箇所
小学校：上鷹見小学校区
自治区会館：上高町公民館

清通寺

